

「親が子どもに教えなければならぬのは

転ばない方法ではなく、

むしろ人間は転んでも

何度だって立ち上がれるという事なんじゃないか!？」

「ハチミツとクローバー」より



も く じ

- | | |
|------------------------|--------|
| • 第11回 ES総会 報告 | p. 2~3 |
| • CAP委員会より | p. 4 |
| • オレンジりぼんより | p. 5 |
| • その他の活動報告 | p. 6~7 |
| • インフォメーション & CAP 活動報告 | p. 8~9 |
| • 事務局からのインフォメーション | 裏表紙 |



第12回 ES総会 あいさつ

こんにちは

私たちはNPO法人として発足し、えんばわめんと堺となり、12回目の総会を迎えることになりました。毎年、この代表のあいさつから始まる総会の場は日頃の会とは少し違い、厳粛にかつ真面目に進めてきています。日々の活動やまたネットワーク、社会のつながりなどを通してそれぞれにご支援ご理解いただき有難うございます。

1997年にCAPプログラムをこの地域（堺市）のすべての子どもに届けたいという思いで市民活動からスタートし、2002年にはNPO法人格を取得し今日に至っています。これまで教育委員会の委託事業として継続してきたCAP事業も予算の削減など変動しましたが、今年からは「義務教育内におけるすべての子どもが必ず一回はCAPプログラムを受けること」と動き出しました。

子どもの人権が保障され、子どもたちが「幸せに生きる」、そんな地域社会をめざします。今後ともよろしく願いいたします。

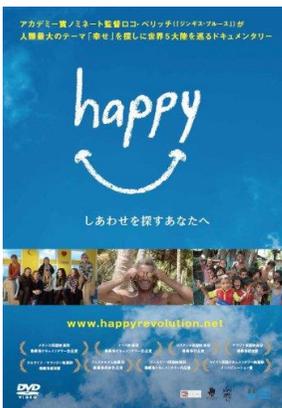
北野 真由美



総会イベント

総会の後は、参加者みんなでDVD“happy—しあわせを探すあなたへ”の鑑賞会。

しあわせについての映画で、世界中の色々な国の、色々な「happy」と思われる場面が収録されています。この映画を見ると、しあわせとは人それぞれ違う、でも共通した「何か」があると感じさせてもらえます。



鑑賞の後は、同じテーブルに座っていたメンバー同士で感想をグループトーク。

その後のトーク内容を発表する時には、いつしか、自分なら映像に登場した中のどの国で暮らして、「happy」を感じたいかという話題に…。

みんな、総会の緊張も解けて、ざっくばらんな発表となりました。





CAP をはじめて もう少して 11 年 (*´艸`)

CAP の養成講座を受けるときは、どんな話なんだろう・・・と軽く興味をもって受けただけだった・・・まさか、CAP の活動を 10 年も続けているなんて、考えもしなかった。CAP で出会った子どもから、いじめられている話、知らない人に出て怖かった話、家の中で怖い思いをしている話などを聴くと、初めのころは、養成講座で習ったように傾聴して聴かないといけないと考え、落ち着いた感じで聴いていたが、心は慌てふためいて、大事な話はおとなにつながらないといけないから、なんて声掛けようか・・・5W1H をきちんと聞かないと・・・とか頭の中がパニックになっていたように思う。今は、子どもから色々な話を聴いたとき、まず始めに目の前にいるこの子どもは、私に話が出来るといふ力があることを感じ、この話をしたことがきっかけで、回復に向かっていける、と思うと心から「話してくれてありがとう」と言える。これは私の 10 年で得たものだと思う。

ただ、毎回出会う子どもたちは違うし、クラスの雰囲気も様々で「おとなに話したら大ごとになるから言わない方が良く」とか「自分ではっきり断れない子が悪い」とか色々な意見が出てくるので、それに返答したり、クラスの他の子に意見を聞いたりしていくのは、今でも難しいと感じる。そのため自己啓発やスキル習得の為の CAP の勉強会やトレーニングを繰り返しおこなっている。



地域のおとなが劇をしながら、子どもたちに暴力防止を伝えることは、とても印象的に残ると、実感したことがあった。今年出会った若い複数の教員から「子どもの時に CAP 受けました。」とか「劇のことや特別な声を覚えています。劇は変わってないですね(^)」と聴いた時に、CAP のことを 10 数年たっても、覚えている子がいるんだ、と嬉しく思いそして、身の引き締まる思いがした。

たえぼん





オレンジいほん

障がいのある子どもへの性の健康教育を実施する中で、気づいたことを書いてもらいました。

障がいのある子どもも性教育を受ける権利があります。私たちが大切にしている活動の1つですが、最近は支援学校の先生にも、性教育の大切さ重要性を感じてもらえるようになり、学年毎もしくは入学から卒業までを大きな枠に組み、基本的な身体のことや清潔から、コミュニケーションとしての性までを計画の中に入れてもらっています。私たちはその中の1回2回を担当させていただく外部の団体として、どのようなプログラムが生徒さんの課題に効果的に働くのか、先生方にとっても今後の授業をするうえでベースとなりえるのか？を考え、打ち合わせで十分に話を聞いた上で進めていきます。

担当の先生方が性にまつわる課題を語ってくれますが、各学校特有のものというよりは、共通したものが多いです。その中から2つ紹介します。1つは子どもたちの中で、自分の性器をよく触る子がいて気になる（特に男子に多い相談）。2つ目は人との距離感が非常に近すぎて困る生徒さんがいる、ということです。

思春期の男子の変化は大きいですね～精通から始まり、夢精がありますし、性器は大きくなってパンツやズボンの中の置き場所に困ることもあるでしょう。自分の意思とは関係なくペニスが勃起するとどうして良いか分からなくなりますし・・・性毛が生えてきて、チクチクしたり違和感があったり。お風呂で上手く洗えてなくて痒かったり、何となく愛おしい性器を触ってみたり、うーんあるある。



そんなこんなで、性器に手がいく子どもたちは多いです。みんながみんな触っているからといって、マスターベーションしている訳ではありません。幼児～小学生もよく性器を触っている子がいますが、思春期になるとおとなの見る目が変わるのです。「また触っている！」と。マスターベーションについては自然に学ぶより、男子も女子もしても良いことであり、自分で自分のからだを触るのは良いが、清潔な手で、1人になれる場所でする、人に見せたり触らせたりしない、と伝えた方がわかりやすいと思います。ある性教育の実践者は、マスターベーションは、男子は必須科目・女子は選択科目と言っています。





そして1人でペニスを洗えるように、「しっかり持って、皮をむいてやさしく洗って、皮を元通りに戻す」と伝えましょう！自分のからだは全てが大切な部分と感じられるように、肯定的に私たちもプログラムの中で伝えています。



次に距離感、相手との境界線が持ちにくい、すぐに触る。についてですが、子ども達が思春期に入るまでに、親や先生や支援者がどんな接触の仕方をしてきたか考えたいです。障がいのある子どもたちの学びはゆっくりです。そして一度身に付いたことを、学び直す事はとても困難な作業です。私たち周りのおとなはそれを分かっているつもりでも、ついつい様々な理由で、子どもの了解なしにからだや、持ち物を触ることがあります。私たちが勝手にからだに触れられたり、自分のものを触られたりしたくないように、子ども達へも尊重した関わりをしていきたいです。そうすることが子どもたち自身の学びに繋がります。授業時間の中で教えることより、普段の生活の中での関わりが、子どもの学びに直結することを十分意識しておくことは重要なことです。私たちも常にそのことを意識しながら、子ども達と関わっています。

(はしもと)



ローズカーニバル

今年も、5月18日に浜寺公園で開催されたローズカーニバルに参加しました。フリーマーケットでの売上金および寄付金を利用して、障がいのある子どもたちへのワークショップを開催する予定です。関心のある方は、ES事務所までご連絡ください。また、今年は「西成子どもの里」への寄付金も募りました。品物を提供して下さった方々、そして当日寄付および購入をして下さった方々、ありがとうございました。この場をお借りして、お礼申し上げます。





「カナダの多様性教育に学ぶ」

～アイデンティティ、偏見、差別について考える～ を受けて

Rima Dib（ディブ・リマ）さん【カナダのNPO 団体 Harmony Movement のファシリテーター・指導者】を迎えて、大阪府人権協会と共催でワークショップ研修を実施した。定員 30 名を上回る参加者で、日頃は人権に関わる活動や授業でファシリテーターや指導者をしている人から一般の人まで、幅広い多くの参加者と共に深く濃い一日研修を終えた。

社会的公正ワークショップでは、自分が持っている偏見や恐れを知るアクティビティ（活動）から始まった。目を閉じて、イメージを身体で表現するこのアクティビティでは、ファシリテーターの「女性」・「男性」・「高齢者・・・」の問いに対して目を開けると、多くの参加者が同じポーズだったことに驚きと納得(笑?)があった。私たちがすでに身につけているイメージがあることに気がついた。私たち自身の信念や風習に関して、私自身に問いかけることを促進された。

また、「私たちは未知の世界に恐れを抱く」というフレーズから、自分がよく知らない状況に対し、恐れとともに反応することは自然なことではあるけれど・・・私自身のレンズ（視点）に向き合い、一歩学ぼう知ろうとするときの「学びの境目・学習境界線」についてはファシリテーターとして大きくなずいた。

教育の場や地域における社会的公平や包括的教育の探求を、長期的で継続的な変化に向けて前進させるためのヒントがたくさん得られた研修であった。

おまけ：この研修後、トレーナーの Rima Dib さんと何人かの有志たちで 国境を越えて情報を交わしながら「幼児期の多様性教育プログラム」の作成に動いている。



Harmony Movement

世界が変わってほしければ、自らが率先して自分が見たいと思う世界の変化の原動力となるべきだ。ハーモニー・ムーブメントは、1994 年に異人種間の偏狭と闘うためと当時のカナダ社会に普及していた「私対彼ら」の姿勢に立ち向かうために創設されたNPO団体。多様性の促進と個人の社会への全参画の際に社会的・文化的障壁となるすべての差別と闘うことであると称している。





発達障がいのある子どもの二次障がいを防ぐとくみ

～自己肯定感を育むための実践に向けて～

講師：松久眞美さん《プール学院大学准教授》

経歴：堺市立百舌鳥養護学校分校教諭。堺市立小学校通常学級担任。同小学校特別支援教室運営。堺市教育センター適応指導教室指導主事。学校心理士、臨床発達心理士、特別支援教育士SV

2014年9月6日に堺市産業振興センターで、松久眞美さんをお招きして、講演会を開催しました。松久さんのお話は、ユーモアにあふれ、とても楽しく、あっという間に時間が過ぎました。

以下に、参加者の方々の感想を掲載します。

感想：

ほめ方、叱り方、大変参考になりました。私もADHDタイプなので、とても興味深く拝聴しました。私は保護者ですが、教育現場で対応される先生方にも、もっと聞いて、知って、頂きたい内容だと思います。有意義な講演、ありがとうございました。えんばわめんと堺の皆様、いつも、ありがとうございます。また、参加させていただきます。

発達障がいの講演で、こんなにおもしろい講演、初めてでした！！私の息子は高機能自閉症で、地域の小学校に通っていますが、進級するたび、新しい担任は理解してくれるだろうか、と不安になります。

…中略…

お忙しいとは思いますが、たくさんの教師に講演してほしいと、強く思いました。よろしくお願いします。

叱る基準をぶれないようにするのは難しいと思いますが、ぜひ実践したいと思いました。

とてもわかりやすく楽しいお話ありがとうございました！信頼できる先生、「こうホメてくれたから、がんばった」という所で、なぜか涙が出てしまいました（笑）今日はお話が聴けて本当によかったです。今後の励みにします！！本も読ませて頂こうと思います。「女優のように」はすごく大切なキーワードだと思っています（笑）また明日から頑張ろう・・・

ドコモ市民活動団体への助成事業



夏休みファミリー劇場

昨年度に引き続き、大阪市（北区、阿倍野区、浪速区の3か所）の夏休みファミリー劇場で、「わたし☆かがやくワークショップ」を実施しました。どの会場も就園前から小学校6年生までの多年齢の子どもたちであふれていました。

わたし：「このイベントをどうやって知ったの？」

子ども：「学校でもらったチラシを見て行きたいと思った」

子ども：「去年も来たよ！おもしろかったからまた来た」

子ども：「夏休みの宿題まだ終わってないけど、おかあさんに行こうって言われた」

子ども：「妹についてきただけやけど、楽しそう」

みんな、とってもフレンドリー！これは楽しみ！

始まる前は、あちらこちらでワーワーとおしゃべりをしていた子どもたち、映画上映（「きずだらけのりんご」～あらしのよるに～のきむらゆういちさん作です）が始まると、スクリーンに集中。この切り替えスゴイ！

カラー刷りのチラシの効果大！！

リピーターも！！

ずっと、妹に寄り添っていた姉とその友だち！

上映中、わたしは子どもたちの様子をチラチラ。わたしは何度も見たので(^_^)



どの子も真剣。ポカンと口をあけている子、ある場面では、“どーっ”と笑いが起こったり、ずっこけたり、悲しい表情をしたり、“あー！”と声をあげたり・・・お話に入り込んでいく子どもたちの表情や表現はとても豊かです。

上映後のワークショップでは、あたま・こころ・からだをフルに使います。カラダほぐしの歌や手遊びをして、ファシリテーターがいろいろな問いをかけます。

例えば・・・「たぬきときつねは何にばけた？」「どんなウソやった？」

「みんなはうそついたことある？」⇒わたしも、一緒にいた保護者も“はーい！”

「どんなウソついたの？」「(シーン)・・・」後方や隣りにいるおかあさんの顔をちらちら・・・そうやよね。言えないこともあるよね。言いたくないことは言わなくても OK！子どもたちの反応はとても正直です。





「気持ちはどう?」「腹が立つときある?」「あるある」「今日もあった」
「涙が出るときは?」「ないわ」「あるよ」「お母さんにおこられたとき」「こけたとき」「く
やしいとき」「気もちって大切だよ」
さまざまな問いに真剣に考え、答える子どもたち。今回も子どもたちの力をたくさん感じる
場面がたくさんありました。

最後は一人ひとりの力を見つける質問をし、シールを貼って黄金のりんごを作成。
学校では、よく「話が聴けない子、じっとできない子が多いんです」なんて言われている
けれど、子どもたちの集中力はハンパない。きっと、ワクワクする材料があれば、こんな
ふうに集中し、参加できるんだな・・・
わたしも2学期からさらに工夫しよう!
とにもかくにも、子どもたちの参加する力に感動でした!

By ありちゃん

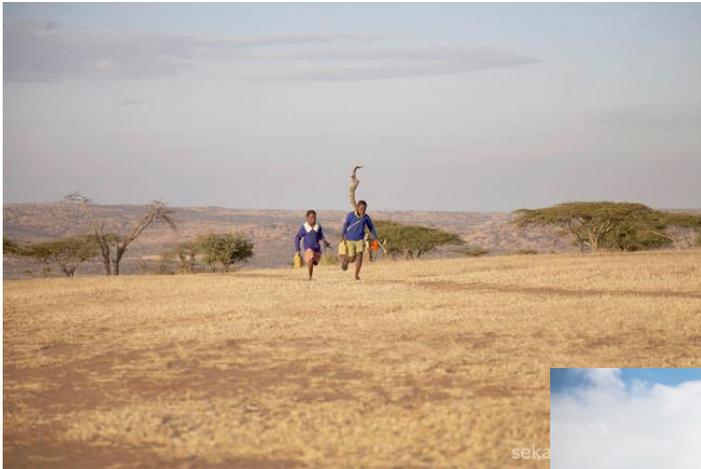




映画 「世界の果ての通学路」 を観て

困難な道を、毎日、毎週、学校に通う4人の子どもたちの通学を撮影したドキュメンタリー映画を見た。野生のキリンや象が行きかうサバンナ、断崖絶壁の細い山道、誰も通らない見渡す限りの平原。これらが通学路だと知ってビックリ!!! 『教育』が「夢をかなえる」唯一で最短の方法だと信じ、命がけの冒険のような通学を、毎日続けている子どもたちの姿に感動!!!

「ぼくのような貧乏な家の子は、普通は学校に通えない。でも、僕の親は学校に通わせてくれているから、とても感謝している。」と、ケニアの男の子が言っていた。モロッコの女の子は、家族で初めて学校に通っている。家族全員が彼女の医者になるという夢を、後押ししている。他の2人も同様に家族全員の協力がある。別の家族に生まれていれば、彼らは学校に通えなかったかもしれない。子どもは親を選べないが、どんなおとなに出会うかで、その後の進む道に影響があるかもしれない。子どもの未来に対しておとなは大きな責任を担っていることを自覚しないとイケないな、と改めて思った。 (たっしー)



「世界の果ての通学路」公式ホームページより



CAP 活動報告

2014年4月～8月まで

	子どもワークショップ									おとなワークショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	1	3	90	0	0	0	0	0	0	1(1)	4(4)
6月	1	3	92	2	4	99	1	3	90	5(4)	66(17)
7月	4	9	295	0	0	0	1	2	61	7(15)	112(19)
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	15	477	2	4	99	2	5	151	13(10)	182(40)

* 助成金報告 * ありがとうございました !

- 2013年度「ドコモ市民活動団体への助成」
 - ・・・ オレンジりぼん活動として、発達障がい児向けコミュニケーション支援のワークショップ、及び、支援者（保護者、教職員、地域の人、その他）向け研修講座を開催しました。
- 公益財団法人 日本社会福祉弘済会・・・オレンジりぼん事業として
- 堺市民活動支援基金・・・SAYの会のワークショップ



ES インフォメーション

☆ 今年度も2015年1月に堺市男女共同参画週間に
実施する学習会を開催予定。(申請中)

☆1/31(土)PM 岡 勇樹さん
(NPO 法人 ubdobe(ウブドベ)代表理事)

2/15(土)AM 伊丹昌一さん (梅花女子大学教授)
詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせします

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円 (入会金なし)

◎ 更新日は年2回(1月31日・8月31日)です。

◎ 会員有効期間は1年です。

郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

特定非営利活動法人えんばわめんと堺/ES

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp

正会員 30名

賛助会員 41名(53口)

2014年 8月

ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしく願いいたします。



編集後記

先日子猫を拾いました。まだへその緒がついている、片手に乗る位の小さな黒猫。母猫も近くに見当たらず、たった一匹で必死に鳴いているのを、娘を見つけました。内心「えらいもん見つけたなあ・・・」と思いながらも、連れて帰り、面倒を見ることに・・・最初は中々ミルクを飲まなかったのですが、数時間格闘した後、やっと哺乳瓶から飲んでくれました。娘は大喜びで、2時間おきにミルクをやっています。その娘が、しみじみと、「赤ちゃん育てるのは大変やなあ・・・お母さんも大変やってんなあ～」と言ったのが、おかしくて。そのうちに私が世話することになるだろうけど、もう少しがんばって面倒見てね。

(たっしー)